

グランントワ応援団通信

第21号

2008年12月19日
事務局
0856・31・1860

文化で輝く 地域を目指して

副センター長
村川 修

グランントワが平成十七年十月に開館して三年が過ぎ、四度目の新年を迎えようとしています。この間、展覧会や劇場事業を質の高いものから大衆的なものまで、多彩な事業を実施してきました。この内容については、各方面から高い評価をいただいております。これらは、グランントワという素晴らしい施設にふさわしい催しですが、これを支えているのは、職員だけでなく地域の多くの皆さんであり、他には真似のできないボランティアの皆さんの力です。それも、このグランントワという素晴らしい施設を益田という小さなまちで輝かせたい、という皆さんの熱い思いがあればこそです。この力は思いと時を重ねる事によって、さらに強力なものになる

と確信します。この熱い気持ちにこたえるためには、私たちグランントワの職員がしっかりと将来を見据え、高い目標を持って事業を行っていく必要があります。このことは、現状にとどまらず、常に課題解決や新しい挑戦を向かっていく姿勢の一つに地域との連携事業があります。今年度の五月には、文化協会や地域の皆さんと初めて本格的に連携して、「室町文化フェスティバル」を開催することができました。初めての取り組みであり、まだまだ課題は残りましたが、能楽や和太鼓と琴、お茶席や華の展示など素晴らしい伝統文化に加え、「産土の舞」という地域固有の踊りなど、内容は歴史と伝統文化を活かした、益田の新しい魅力づくりとなることが確認されました。これを核に益田地区を中心とした歴史的雰囲気

のまちづくりや、駅前通りの賑わい創出や、活性化などに発展していくことが望まれます。益田には借り物ではない益田だけの魅力がたくさんあります。これをみなさんと磨いていくことが必要です。「室町文化フェスティバル」に取り組んでいる中で、新しい動きとなつていくのが「中世の食再現プロジェクト」です。益田の歴史を学び楽しむながら歴史的資源を再認識して、日本文化の原点でもある中世・室町時代の料理を再現することともに、地域の魅力として観光資源とすることを目指す取り組みです。その中では鮎ずしなどの地域の特産資源を活用した料理の再現も目指しています。この取り組みとは別に高津川の水質改善を機に、高津川で有名な鮎を使った開発され、売れ行き好調な「鮎飯の素」などの新しい取り組みなども始まっ

澄川喜一センター長の文化功労者顕彰祝賀会が、十二月五日にグランントワで盛大に開催されました。



おめでとう
「げいます」。

「お正月のお楽しみ アメリカの 見た夢」展へ

お正月二日より、一九二〇年〜三〇年のアメリカをテーマにした美術展が開催されます。

当時の日本人画家の作品、アメリカの写真、モダンライフとデザインなどがテーマ展示されます。今回の見所を河野学芸員に聞きました。

◎「なぜ、一九二〇年〜三〇年なのか？」
・アメリカでは近代生活が始まり、絵や写真、デザインが発達した。また、日本人の油絵が認められたこと。

◎「鑑賞するポイントは？」
・絵だけでなく今回は写真、デザインがあり幅広く楽しめますよ。
・アメリカの「幻の名車」が展示されますよ。

(情報ボランティア)



賑やかな ボランティア室

フロントボランティアの活動が行われる日のボランティア室は、とても賑やかです。ホワイエ(ロビー)で、ミートイングが始まるまでに、制服に着替えたり、名札を付けたりと、女性は黄色いリボンや口を動かしながら、身だしなみを整えて行きます。準備が出来ると、ボランティアからの差し入れを小腹に入れ「おいしいねえこれどうやって作るん」と、料理教室が始まったりもします。それから、自分のポジションに一喜一憂しながらフロント活動へと気持ちを切り替えていきます。十月二十五日(土)の宮本笑里リサイタルは、小ホールだからフロントボランティアが少なくても大丈夫と思つていたら、自由席の上に満席で遅れ客も多く空席探しが大変でした。又、バイオリンなので音を立てないように気を遣うことも必要でした。続いて、翌日、二十六日(月)の徳永英明コンサートでは、大入り袋が出て大盛況でした。これから、大入り袋をどんどん増やしたいものです。公演が終わると疲れもですが、お客様の幸せそうな顔を見たり「よかったよ」「感激しました」「涙が出ました」などと、言ってくださると疲れも半減します。そんな感動の手伝いが出来て嬉しいと思います。フロントボランティアは、年齢も決して若くはないし、高齢の親や家族の病気、自身の体調など皆さん大変なこともあります。が、時間を見つけてフロント活動に参加されている姿にありがたいと思います。限られた人数で活動しているの、部分的な参加をして下さる方があれば大歓迎です。(フロントボランティア 有福君江)

点灯式

グラナリエの点灯が、十一月二十二日午後五時過ぎ、益田ジュニア合唱団約三十名のオープニングの歌唱。山崎館長のリードでカウントダウンでの点灯式が行われた。

(情報ボランティア)

(写真、

左、合唱団。中、正面玄関。

右、中庭。)



写真

上、大名行列
下、女性みこし

七尾まつり

大名行列が 中庭をねり歩く

十一月三日「いきいき益田の会」主催による秋の大祭「七尾まつり」の大名行列などがグラントに集結。中庭で衣装をまとった市民の演技が披露されました。益田小学校児童によるこども奴(やっこ)、女子高校生のレディースお神輿、菅原道真に由来する「大行司、小行司」、益田公の大名行列など。また「青原の奴おどり」、「北仙道の田植え囃子」などがありました。色とりどりの鮮やかな衣装で踊る姿が水盤に映えてそれは大変すばらしい光景で、沢山の見物人がありました。七尾まつりのメイン・イベントであるこの行列は昨年よりグラントワに来ることにになり、市民の楽しみが増えました。市民のおまつりにいつも参加するグラントワであり続けてほしいものです。

(情報ボランティア 飯塚哲也)

ボランティア研修報告

悲母観音、そして 青春交響の塔

十一月二日(月)下関市立美術館を中心に、ボランティア会の研修旅行を実施しました。参加者三十人(内センター職員五人)

下関市立美術館のボランティア会では、美術館友の会の研修旅行東京・箱根三泊四日!とありました。友の会の澤江男也事務局長と会員二人から話を聞きましたが、澤江氏は益田出身です。「狩野芳崖・悲母観音への軌跡」展の鑑賞に先立って、井上誠館長から講話を聴きました。展示作品六十点中のメイン「悲母観音」は、厨子を思わせるような特殊な装丁になっていて、仏画というだけでなく、作品の歴史的意義により特別扱いという印象を受けました。描かれている幼児は芳崖の初孫だという話を思い出しながら見つめたことです。海響館(水族館)に近く、澄川喜一センター長作「青春交響の塔」があります。高さ十メートルの接近してそびえ立つ二本の石造彫刻です。二本の刀が切り結びかつ寄り添って、海を遥かに見渡している。幕末激動の時代に、高杉晋作と坂本龍馬が国の未来について激論を戦わせた姿で

す。塔の前で記念撮影。関門海峡を門司に渡って、海峡の歴史ドラマを立体的に構成した「海峡ドラマシッポ」を見た後、門司港レトロ街を各自散策して帰りました。

(ボランティア会長 石田 彰)



親子キャンドル・フェ

九月六日(土)夕暮れより約一三〇〇個のキャンドルが輝きました。それは見事な光景でした。これは 益田市と鹿足郡の保育園(四十一箇所)の方々が「グランドワ」と地域の子供(親子)の連携、親しみを深める」ために企画、準備されたものです。(今年で三回目です。)

園児が 思い思いに絵や 願いを書いて大きめのペットボトル(下側の半分)に貼り付けます。カラフルに出来ています。この中にローソクを灯します。水面や周囲に映え幻想の世界ができました。当日は多くの親子ずれが訪れました。周りには子供向けの夜店も出て みんな楽しんでいました。子供たちは良い思い出として忘れることはないでしょうし、今後「地域みんなのグランドワ」を応援してくれることと思います。

(情報ボランティア 飯塚 哲也)



・親子キャンドルフェスタ(中庭)

友の会チケットの

抽選会

先日「徳永英明コンサート」の先行予約抽選会に立会者として参加しました。その時の 模様をお知らせします。今回の当選枚数は八九一枚に対して申し込みチケットは一五一四枚でした。(総数で約一・七倍)抽選会場(講義室)の中央に抽選箱が配置され 責任者、進行係

当選はがきを選ぶ係(女性)、立会者が席に着き、準備完了。まず申し込みはがきの点検を「立会者」が行います。次に申し込みはがきを抽選箱に入れ、良くかき混ぜます。いよいよ当選はがきが選ばれ席数が読み上げられます。立会者より「当選箱の下にも手を入れるように」と注文がつく。当選の累計枚数がカウントされその都度読み上げられます。二人の女性によりハガキが選ばれますが、なにせ枚数が多く、時間がかかりすぎます。途中指先を傷めないよう手袋をする一幕もありました。S、A、B、ペア席ごとに当選者が決まりそのはがきを封筒に入れ立会者が厳重に封をします。

いやいや!それは大変厳正に抽選会が行われました。

(情報ボランティア 飯塚 哲也)

きんさいデー

平成二十年十月十二日(日)好天に恵まれ午前、午後とイベントが次々と続き、たくさんのお客さんで賑わっていました。

○開会式 中庭で澄川センター長から三周年を感謝する旨のあいさつと本日は大いに楽しんでくださいと言葉がありました。○紙飛行機大会・大人も子供も約五十名が参加して自分で紙を折って作った飛行機を飛ばして距離を競うもの。苦戦してる人多数あり。約十八メートルを飛ばした子供さんが優勝でした。賞品が多数あり、みんな

楽しんでいました。○お椀型のポット(お風呂)が水盤の中に出現!アーテイストの牛嶋均さんたちが作ったものに美都温泉のお湯をいれ、水着を着て楽しむもの。みんな見ている前でちよつと。ユニークな作品でした。午後は、○大冒険クイズラリーなどもあり終日楽しい企画で一杯でした。

(情報ボランティア)



きんさいデーで

16ミリ映画上映

大人気

「ゲゲゲの鬼たろう」

ボランティアの「イベントグループ」が企画実行したもので小ホール超満員・大盛況の約五百名の入場があり、子供達には大変好評でした。フィルム、映写機の借用のほか、映写機の手もこのグループで担当。また、グッズの販売を手がけました。リーダーの城市さんは、「たくさんのお客さんが、大変うれし、努力のかけがありました。来年もみなさんに喜ばれるイベントを企画したいと思えます。」とのことでした。大変お疲れ様でした。

(情報ボランティア)

写真

上段 上左、水盤の中のお風呂。

上中、抽選風景。

上右、ボーリング風景。

下段、下左、サイン瓦読みクイズ。

下中、大冒険受付風景。

下右、お絵かき風景。



・中庭「鬼たろう」のぬいぐるみ出現

グラントワシアター で観る

グラントワシアターもこの十月で三周年になります。毎月一回、休まず上映してきました。その上映作品の選定については、いつも悩むところです。グラントワで上映するには、どんな作品が似合うのでしょうか？ 実際には、色々な制約がありますが、スクリーンで映画を見る喜びを一人でも多くの人と分かち合いたい、そんな思い出で活動しています。

この夏、石見地方で唯一の地元映画館が閉館になりました。悲しいニュースですが、人口十万人以下の都市で、映画館を維持するのは難しいそうですから、今まで頑張ってくれたこの映画館には感謝の気持ちでいっぱいです。

地元で映画をスクリーンで見られるのは、グラントワだけになりました。今、地方の映画上映の状況はますます逼迫しています。スクリーンの灯火を消さないため、グラントワシアターの存在は貴重です。

明るいニュースもあります。今、益田で映画を作ろうとする人達がいまいます。先日、私もそのグループに招かれお話をさせてもらう機会がありました。益田発の映画をどうすれば作れるのか熱く語り合っています。また、映画のロケを誘致するフィルムコミッションを作る動きもあります。

今年、グラントワを訪れた「殯(もがり)の森」でカンヌ映画祭グランプリを受賞した河瀬直美監督もぜひ益田に映画のロケを誘致するようお

話されています。益田周辺には、映画のロケにふさわしい、すばらしい景色がいっぱいあるのです。そう遠くない時期に、益田発の映画をグラントワシアターで観る日が来るかもしれません。今年になって、新たに映画ボランティアのメンバーが加わりました。この貴重なスクリーンを守り、さらに発展するため、映画を愛する人が増えて、仲間に加わってくださることを願っています。

(映画ボランティア 大畑 稔)



アンタツチャブル

ご存知、禁酒法下のアメリカで酒の密売に関わり暗躍したアルカポネと、それに立ち向かう捜査官との間で繰り広げられる闘争を描いたクラシックなマフィア映画の傑作です。ギャングのボス、アルカポネ(ロバート・デ・ニーロ)に、若き理想家財務官エリオット・ネス(ケビン・コスナー)、信念を曲げないアイルランド系警察官ジミーマローン(シヨーン・コネリー)、無口な捜査官ストーン(アンディー・ガルシア)らが立ち向かいます。全体的には、軽妙なテンポで進んでいくので、マフィアものとしては、実に気楽に見られるエンターテイメント作品です。印象的なところは、何と云ってもケビン・コスナーのダンディーさでしょう。なかでも「一杯やるよ」と言い残して、歩き去ってゆく・・・ラストシーンのかつこよさは、絶品といえるでしょう。また、セントラル駅での乳母車の階段シーンも有名でアンディー・ガルシアの見せ所です。美術館で開催のアメリカ展と合わせて見れば更に楽しんでもらえるのでは、ないでしょうか。

(火の鳥)

中庭での「結婚式」

ある秋晴れの休日、中庭で行われている結婚式に出会いました。周囲の石見瓦に太陽の光が映えて、中庭が明るい式場になりました。椅子やマイクなどの会場準備が整い、司会者の進行で式は進みます。式は「人前結婚式」のようでした。なごやかな雰囲気のように感じました。

新郎新婦は市内美都町の方でした。回廊から、グラントワの入館者に祝福されてみんな大変うれしく、幸せな表情でした。最後にはお祝いの風船を空に放ちました。良い思い出になったことと思います。つぎは子供さんと一緒にお出で下さい。お待ちしております。

(情報ボランティア 飯塚哲也)



・中庭での結婚式風景

あ
と
が
き

今回は、取材期間も長く十月には三周年イベントもあり、記事の内容も充実したものとなりました。ボランティア活動も地域の皆様に認められてきて会員も張り切って活動している様子が伺えると思います。さらに、各活動への新鮮な新たな力を提供していただけるボランティア会員への参加・入会をお待ちしています。

(情報ボランティア)

写真

右、小ホールでの上映前の入館者風景。

左上、ハローイン南瓜と会員。

左下、映画ボランティア会義風景。